

※ 掲載している情報は全て開催当時のものです。

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成29年度	「家康没後四百年 徳川歴代将軍名宝展—久能山東照宮」	静岡県静岡市の久能山東照宮は、初代将軍徳川家康が埋葬された神社であり、国宝・重要文化財230展を含む2000点を誇る美術・工芸品を所有しています。本展では、徳川家康が亡くなり神として祀られた元和二(1616)年から四百年の節目を記念し、久能山東照宮が所有する美術・工芸品の中から、徳川将軍家の歴史を体現する歴代将軍の甲冑勢揃い(九州初)をはじめ、歴代将軍の遺品などを選びすぐって展示し、武家文化の精髓を紹介します。	平成29年4月8日(土)～5月28日(日)
	夢の美術館 —めぐりあう名画たち—	福岡市美術館と北九州市立美術館の名品68点が本県にやってきます。両館の改修工事に伴う休館のため実現可能となった“夢の美術館”です。ダリの「ポルト・リガトの聖母」、ウォーホルの「エルヴィス」、ドガの「マネ夫人像」などを宮崎で鑑賞できる貴重な機会です。	平成29年7月22日(土)～9月3日(日)
	あそぶ浮世絵 にゃんとも猫だらけ	猫が描かれた浮世絵版画を集めた展覧会です。愛猫家として知られた歌川国芳など浮世絵約130点によって、江戸の人々と猫との楽しく、愉快な暮らしぶりをうかがうことができます。楽しく鑑賞できる展覧会です。	平成29年10月28日(土)～12月3日(日)
	川崎毅と矢野静明	本県出身の2名の作家に焦点を当てた展覧会です。川崎毅はシンプルな形の組み合わせによる立体表現、矢野静明は繊細な線と色彩による平面表現。二人の静かで心にしみる独特の世界を紹介します。	平成30年1月5日(金)～2月4日(日)
平成28年度	有元利夫展 —永遠の女神たち—	1980年代の画壇の寵児でありながら38歳で夭折した画家、有元利夫の作品展です。詩情あふれる有元の独特の画風は、多くの人々の心に深い感銘を与えます。絵画、素描、版画、立体など120点により有元芸術の全容を展覧するものです。	平成28年4月23日(土)～5月29日(日)
	ウッドワン美術館名品選 輝く美の巨匠たち	横山大観や上村松園、青木繁や岸田劉生など近代の日本美術を牽引した国内作家の選りすぐりの日本画・洋画約80点を紹介します。親しみのある名品の鑑賞をととして、安らぎのひとときを提供する展覧会です。	平成28年7月23日(土)～8月28日(日)
	篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN	篠山自身が厳選した逸品ぞろいの写真による国内初めての大規模な美術館巡回展です。篠山が過去50年間に撮影してきた「有名人」の肖像をもとに、これまでの写真展の常識を塗り変える圧倒的なスケールの展覧会です。	平成28年10月29日(土)～12月11日(日)
平成27年度	ディズニー 夢と魔法の90年展 ミッキーマウスからピクサーまで	2014年はウォルト・ディズニー・カンパニー創立90周年であることを記念して、2014年から2015年にかけて日本全国を巡回することとなった企画展です。ミッキーマウスから実写作品の「パイレーツ・オブ・カリビアン」、「モンスターズ・インク」などのピクサー作品まで、アートや小道具類、コスチューム、模型など約800点を一同に展覧します。子ども達はもちろん多くの方々に喜んでいただける展覧会です。	平成27年7月18日(土)～8月31日(月)
	川端康成の眼 川端コレクションと東山魁夷	ノーベル文学賞を受賞した川端康成は、優れた美術コレクターとしても知られます。そのコレクションは、土偶などの先史美術から江戸美術、近現代絵画や工芸、彫刻など幅広いものです。本展では、川端コレクションから、後に国宝に指定された池大雅・与謝蕪村による合作と浦上玉堂の水墨画、川端と深い交流のあった東山魁夷の作品をはじめ、梅原龍三郎、古賀春江、北大路魯山人、ロダン、ルノワールなどの優品を紹介します。また、文学者・川端に関する資料や文豪たちの書簡なども見所の一つです。	平成27年10月31日(土)～12月6日(日)
	東京国立近代美術館 工芸館 名品展	東京国立近代美術館工芸館は、1977年の開館以来、近代工芸の巨匠たちの作品を収集し、その魅力を発信してきました。今回の展覧会は、そのコレクションの中から陶磁、ガラス、漆工、竹工、染色、人形、金工などの名品を紹介します。様々な分野の作品がそろい、またとない鑑賞の機会です。	平成28年1月5日(火)～1月31日(日)
平成26年度	大分市美術館名品展 伝統と革新と	江戸後期の文人画家田能村竹田、日本画の福田平八郎や高山辰雄、洋画の佐藤敏、重要無形文化財保持者(人間国宝)となった竹工芸の生野祥雲斎、現代美術の吉村益信など、優れた郷土作家を核にした幅広いコレクションを誇る大分市美術館の収蔵品の中から、重要文化財8点を含む珠玉の名品85点を紹介します。	平成26年5月3日(土・祝)～6月1日(日)
	ポーラ美術館コレクション展 モネ、ルノワールからピカソまで	ポーラ美術館は、印象派やエコール・ド・パリの画家たちの絵画を中心とした国内でも有数のコレクションを誇る美術館です。本展ではその中から選りすぐりの72点を紹介します。コロロやクールベら印象主義を予告した画家たちに始まり、モネ、ルノワールなどの印象派の巨匠たちを中心に、ポスト印象派のセザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、そして20世紀美術へとつなぐマティス、ローランサン、ブラック、ピカソなど、よく知られている作家の作品により、近代西洋美術の流れを概観します。	平成26年7月5日(土)～8月31日(日)
	横山裕一×シュルレアリスム	宮崎県出身の漫画家、横山裕一は、「ネオ漫画」と呼ばれる独創的な作風で現代美術のカテゴリーにおいても世界的に注目されている作家です。昨年の愛知トリエンナーレでも、横山の作品によるラッピングカーがトリエンナーレの顔として名古屋の街を疾走し注目を集めました。本展では『トラベル』や『ニュー・土木』などの代表作を紹介するとともに、横山の描く「絶えず流れる時間と世界」に描かれる「もう一つの現実」と、20世紀初頭に「いつわりのない現実」に触れようとしたシュルレアリスムの当館所蔵の作品を対峙させた展示も行います。ふだん見慣れているはずの「現実」のもう一つの側面をお楽しみください。	平成26年11月1日(土)～12月7日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成25年度	魔法の美術館 光のアート展	この展覧会は、作品に直に触れたり中に入り込んだりして、アートを楽しむ体感できるものです。「光のアート」は、観覧者の働きかけによって、光や色、さまざまな影が、魔法のように変幻自在にその姿を変化させます。「見る」「触る」「参加する」ことをとおして、子どもから大人まで楽しさを共有でき、作品と遊びながら新感覚のアートを堪能できる体感型美術展、それが「魔法の美術館 光のアート展」です。	平成25年4月28日(日)～6月2日(日)
	藤城清治 光と影のファンタジー	日本における影絵作家の第一人者、藤城清治氏は、さまざまな分野に活躍の場を広げ、その作品は絵本や雑誌、カレンダーなどでも数多く紹介されています。童話や聖書をはじめとして実在する風景にまで及ぶ多彩なテーマを、黒のシルエットで表すモダンでお洒落な作風で高い人気を博しています。今回、本展に向けて宮崎県で取材した新作を含む、約200点を展示する予定です。光と影が織りなす幻想的な藤城清治ワールドをぜひご堪能ください。	平成25年 6月29日(土)～9月1日(日)
	愛されつづけた ヨーロッパ絵画バロックから近代へ	長野市在住の蒐集(しゅうしゅう)家、長坂剛氏による「長坂コレクション」より、17～19世紀のヨーロッパ絵画を紹介するものです。強い色彩や光と影の対比、曲がりくねった線や動きで、躍動的な表現が特徴であるバロック絵画を中心に、宗教画、肖像画、風景画、風俗画など多彩なジャンルにわたる見応えある大作による展覧会となります。古きよき時代のヨーロッパの雰囲気と美意識を伝えてくれる優品の数々は、わかりやすく親しみのもてるもので、美術作品を鑑賞する楽しさを改めて感じさせてくれるでしょう。	平成25年11月2日(土)～12月8日(日)
平成24年度	～日中国交正常化40周年記念～ 地上の天宮 北京・故宮博物院展	北京・故宮博物院の収蔵作品から、后妃や宮女など故宮に生きた女性たちの知られざる生涯とそのまなざしをテーマに、絵画、工芸、服飾、宝飾などの国家一級文物(日本の国宝に相当)を含む名品約200点を展示し、中国宮廷文化の精髓をご紹介します。中でも、特別出品として海外初公開される故宮秘蔵の南宋時代の名画「女孝教図(おんなこうきょうず)」、西太后をはじめ皇后や皇妃たちが用いた貴重な食器による清朝宮廷の食卓再現は大きな見所です。	平成24年5月19日(土)～6月24日(日)
	京都 細見美術館 琳派・若冲と雅の世界	京都・細見美術館は、弥生時代の土器から近代の琳派の作品まで、日本美術のほぼ全ての分野・時代を網羅する優れたコレクションを有することで知られ、国内外から高い評価を得ています。本展では、仏教美術や物語絵、近年注目を集める俵屋宗達や尾形光琳ら琳派の華麗な様式や、ユニークな画風で人気の高い伊藤若冲の掛け軸や屏風、その他、雅な意匠の蒔絵、七宝など、同館の所蔵品から選りすぐりの優品を展示します。日本美術の多彩な魅力をお楽しみください。	平成24年 7月22日(日)～8月26日(日)
	アートエネルギー研究所	心にチャージ！新しいアートの力を感じてみませんか？ アートの力って何でしょう？ 美しさや驚きを楽しむ。その時々自分を映し出し、忘れていた何か、未知なる何かを気づかせてくれる。… アートは見えないものを見るようにする力、聞こえないものを聞こえるようにする力を持っています。そんなアートから感じるエネルギーは人それぞれで千差万別です。本展では、4032点に及ぶ当館の収蔵作品の中から、アートエネルギーという独自の切り込みによって、コレクションの新たな魅力を紹介します。作品とあなたの中に素敵な化学反応が起こるようなしなかけがいつばい	平成24年11月3日(土)～12月9日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成23年度	清水寺秘宝展	京都清水寺の秘仏を宮崎で初公開。 清水寺は、今から1200年前延鎮上人が、観音さまの夢のお告げによって音羽山中清水に開基されました。それ以来清水寺は霊験あらたかな観音霊場として洛中洛外に聞こえ、「源氏物語」「枕草子」「平家物語」などの古典から能、歌舞伎、縁起絵巻、童歌から落語にいたるまで、様々な語り継がれてきました。本展では、ご本尊「十一面千手観世音菩薩立像(御本尊御前立)」をはじめ、重要文化財を含む仏像、曼荼羅、屏風、書といった多数の寺の秘宝を展覧し、清水寺の全貌とその魅力を紹介します。宮崎への初の出開帳です。	平成23年11月3日(木)～12月11日(日)
	生誕100年記念 瑛九展	郷土の作家瑛九の生誕100年を記念して開催します。 瑛九の全貌を紹介する大回顧展です。瑛九は、「油彩」「フォト・デッサン」「銅版画」「石版画」など多岐にわたる分野で創作活動を続けました。また、創作活動以外に新しい美術運動や団体の結成・創立、美術教育にも関わりました。生涯強烈なオリジナリティを貫いた瑛九。本展では、瑛九の代表作とともに国内外の作家の作品や瑛九にまつわる様々な資料をまじえ、これまでとは異なる視点から瑛九芸術創造の過程と多面的な魅力に迫ります。	平成23年7月16日(土)～8月28日(日)
	日本のグラフィックデザイン2008-2010展	本展では、世界的にも高い評価を受けている日本のグラフィックデザインの優れた作品を紹介します。 日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)による「日本のグラフィックデザイン」展の3年分の作品から、日本のデザインの代表的な作品の数々を展覧します。グラフィックデザインの今が感じられる展覧会です。また、全国のJAGDA会員と宮崎デザイナーズクラブ会員による「元氣」をテーマにした作品「+みやざき・スピリッツ」焼酎ラベルのデザイン展を同時開催いたします。全国から届いた「元氣」、宮崎から発信する「元氣」をご覧ください。	平成23年4月29日(金)～6月5日(日)
平成22年度	トリック・アートの世界 だまされる楽しさ	古今東西の画家たちは、様々な「だまし絵」を手がけ、見るものをあざむき楽しませてきました。本展では、高松市美術館のコレクションを中心に、視覚と固定化されたイメージに揺さぶりをかける作品を「トリック・アート」として紹介します。「見ることの不思議」と「だまされる楽しさ」を体感し、お楽しみください。	平成22年11月3日(水・祝)～12月5日(日)
	水野美術館コレクションの名品より 近代日本画 美の系譜	長野市の水野美術館所蔵の名品の中から、横山大観、菱田春草などの巨匠たち、美人画の上村松園や錦木清方、戦後活躍した高山辰雄、平山郁夫などの作品約60点を展示し、近代日本画の流れをご覧ください。横山大観の代表作「無我」は必見です。	平成22年8月13日(金)～9月12日(日)
	「宮崎-四つの風」展 -宮崎発のアートシーンを探る-	本展は、彫刻、写真、デザイン、絵画の世界で活躍している本県出身の4作家に焦点を当て、それぞれの活動の一端を、計100点余りの作品によって紹介するものです。 彫刻の保田井智之。写真の内倉真一郎。イラストレーションの上杉忠弘。絵画の松田俊哉。宮崎に生まれ、それぞれの分野で感性を研ぎ澄まし、豊かな才能を開花させている4人のアーティストたち。その意欲的な創作活動から生まれる個性的な作品は、多くの人々の心に鮮烈なアートの風を吹かせています。	平成22年5月1日(土)～6月6日(日)
平成21年度	中右コレクション 四大浮世絵師展 ～写楽・歌麿・北斎・広重～	お江戸の人気浮世絵師 勢ぞろい。 浮世絵が、江戸文化の華としてめざましく発展していく中で、その中心として活躍し、頂点を極めた四人の絵師がいました。役者絵の写楽、美人画の歌麿、風景画の広重、そして視覚の魔術師として知られる北斎です。本展は、四大浮世絵師の代表作約170点を一堂に展示し、今なお豊かな表現力と色鮮やかな色彩で多くの人々を魅了してやまない浮世絵の魅力に迫ります。特に写楽の役者絵20点が並ぶのは大変珍しい圧巻です。	平成21年11月7日(土)～12月13日(日)
	子どもたちに残したい名画 石橋美術館展	あの「海の幸」がやってくる。 石橋美術館(福岡県久留米市)は、ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が収集した美術コレクションを展示する目的で1956(昭和31)年に開館しました。本展では、国内屈指の日本近代洋画コレクションを誇る石橋美術館の収蔵品から、青木繁の「海の幸」や「わだつみのいるこの宮」、藤島武二の「天平の面影」など、重要文化財を含む明治から昭和にいたる日本の名画約90点を紹介します。	平成21年7月18日(土)～8月30日(日)
	岩合光昭写真展 地球のたからもの	岩合光昭は、写真家であった父の助手としてガラパゴス諸島を訪ねた際、自然の驚異に圧倒され、大学卒業後フリーのカメラマンとしてスタートしました。以後、地球上のあらゆる地域をフィールドとして活動し、野生動物や自然を撮影し続けています。本展では、オーストラリア、アフリカ、中国など世界の自然や動物たちと、ニホンザルや犬、猫など日本の動物たちの写真約190点により、優しくも迫力のある「IWAGO'S WORLD」を紹介します。	平成21年5月2日(土)～5月31日(日)
	ーペールをぬいだー 日赤秘蔵名品展 ー日本赤十字社宮崎県支部120周年記念事業ー	日本赤十字社宮崎県支部の誕生120周年を記念して、日本赤十字社コレクションによる美術展を開催します。これまでペールに包まれていたコレクションの中から、小磯良平、東郷青児、東山魁夷、梅原龍三郎らの名品を紹介します。(協力事業)	平成21年4月11日(土)～4月26日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成20年度	ハウステンボス美術館所蔵 エッシャーの迷宮世界展	だまし絵で知られるオランダの版画家、M.C.エッシャー。彼は、図形として実際にはあり得ない不可思議な構造を豊かな洞察力と想像力で精緻に描き、みる者を幻想の世界に引き入れます。本展では、世界有数のエッシャー・コレクションで知られるハウステンボス美術館が所蔵する作品により、その不思議な世界を紹介します。 ドローイングや版木など貴重な資料類もあわせ140点	平成21年1月10日(土)～2月8日(日)
	パリーニューヨーク20世紀絵画の流れ フランシス・リーマン・ロブ・アート・センター所蔵品展	パリを中心とするヨーロッパで芽生えた前衛美術が、海を渡り、アメリカで「モダニズム」と言われる新しい絵画表現を生み出していった20世紀絵画の流れを、ピカソ、シャガール、ウォーホルらの作品により概観します。アート・センターのコレクションがまとめて公開されるのは世界で初めてです。 74作家86点の多彩なラインナップ	平成20年11月14日(金)～12月14日(日)
	みんなのドラえもん展 ～魅力のひみつ～	未来からタイムマシンに乗ってやってきたネコ型ロボット・ドラえもん。1970年の連載開始以来、多くの人々に愛され続ける、日本を代表する人気漫画作品です。本展では貴重な原画を中心に、グッズや現代アート作家による作品等で、ドラえもんの様々な展開とその世界観を紹介します。 貴重な原画を一挙公開！	平成20年8月1日(金)～8月31日(日)
	川喜田半泥子と人間国宝たち展 ～桃山ルネッサンス 陶芸の近代化～	東の魯山人、西の半泥子と称された川喜田半泥子は、三重県津市の素封家に生まれ、百五銀行の頭取など財界人として活躍する一方、数寄風流人として、陶芸・絵画・書・茶などにも通じていました。また、近代陶芸を模索する荒川豊蔵、三輪休和、金重陶陽らと交遊し、彼らの精神的な指導者でもありました。この展覧会では、志野、萩焼、備前焼、唐津焼の人間国宝らの作品に、彼らを支援した川喜田の陶芸や書画をあわせて約170点を紹介します。	平成20年5月3日(土)～6月1日(日)
平成19年度	美のひとつとき展 ～県立美術館名品との新たな出会い～	県立美術館コレクションの中から名品を選び、美術館に収蔵される前の状況やできごとを再現するなど、作品の様々な「ひとつとき」を紹介します。今まで見逃していたことや知らなかった面に気づくなど、きっと作品との新たな出会いがあることでしょう。作品が語りかける言葉に耳を傾けながら、安らぎの「ひとつとき」をお過ごしください。 【日本画、油彩画、水彩画、版画、彫刻など約100点】	平成20年1月11日(金)～2月3日(日)
	チェコ国立モラヴィア・ギャラリー、ブルーノ チェコ国立ブラハエ芸術美術館所蔵作品による アルフォンス・ミュシャ展 ～憧れのパリと祖国モラヴィア～	19世紀末、アール・ヌーヴォーを代表する画家、アルフォンス・ミュシャの人気の高いポスターやカラーリトグラフなどのグラフィック作品を中心に、油彩画、装飾美術などオリジナル作品を加えて展覧し、アール・ヌーヴォー＝ミュシャ様式と呼ばれた華やかな芸術の全貌を明らかにします。 【ポスター、カラーリトグラフ、油彩画等165点】	平成19年11月2日(金)～12月9日(日)
	シュルレアリスム展 —謎をめぐる不思議な旅—	ダリやマグリット、エルンストの作品に代表される20世紀の革命的な芸術運動であったシュルレアリスム。表現されるイメージの世界は一見、奇抜で不思議に見えるかも知れません。本展では難解だと思われるシュルレアリスムの世界を、4つのキーワードを柱に謎を解くようにわかりやすく案内します。 【水彩画、版画、油彩画など約120点】	平成19年7月21日(土)～9月2日(日)
	2007 両洋の眼展	『両洋の眼』展には、日本画・洋画の区別はもちろん、具象画、抽象画の区別もありません。それぞれの枠を越えて、現在もっとも活躍する画家たち70余名の制作した意欲的な新作を一堂に紹介するもので、今後の美術動向を展望する絶好の機会となるでしょう。 【日本画、油彩画等約70点】	平成19年5月19日(土)～6月17日(日)
平成18年度	空、海、山、川…郷土の風土が育んだ 宮崎の洋画100年展	明治維新後、洋画は本格的に日本に取り入れられるようになりました。宮崎県の画家達もある者は海外に、ある者は国内の美術学校に学び新しい表現に取り組みました。また様々な美術グループが生まれ、美術文化を育ててきました。本展では明治から昭和までの本県の画家達の足跡をたどり、国内外の動きと呼応しながら発展した宮崎県の洋画の流れを紹介します。	平成19年1月11日(木)～2月12日(月)
	公開制作併催「戸谷成雄 ～大きな森～ 展」	公開制作に併せて「戸谷成雄 ～大きな森～ 展」を開催します。作品から発せられる圧倒的なエネルギーに触れるとき、みなさんの心のどこかにも新しい炎が灯るかもしれません。	平成18年12月5日(火)～12月24日(日)
	マリー・アントワネット生誕 250周年記念 マリア・テレジアとマリー・アントワネット展 華麗なるハプスブルク家 母と娘の物語	650年の歴史を誇ったハプスブルク家。その激動の時代を生きた母と娘、マリア・テレジアとマリー・アントワネット。本展は展覧会の監修に「ベルサイユのばら」の劇作家、池田理代子氏を迎え、マリア・テレジアとマリー・アントワネットの母娘の物語を主軸に、ハプスブルク家絶世期の文化と美術、そして魅力あふれる二人の女性の波乱の生涯を初公開を含む貴重な遺品等によって紹介します。	平成18年10月20日(金)～11月26日(日)
	虹のかなたに 襲撃AY-O回顧 1950-2006	「虹の画家」と呼ばれる襲撃は、常に独自の表現を志向し国際的なアーティストとしての評価を獲得してきました。本展では、瑛九とともに活動したデモクラート美術家協会時代から渡米後のフルクサスでの活動、そして現在にいたるまでの活動の中で生み出されてきた多彩な作品の展覧によって、彼の創作活動の全貌を紹介します。	平成18年7月28日(金)～8月27日(日)
	ドイツ・ヒルデスハイム博物館所蔵 古代エジプト展 ～甦る五千年の神秘～	宮崎県での本格的な古代エジプト展は初めての開催となります。美術工芸品はもちろん歴史のロマンに触れる絶好の機会です。県民の皆様からの要望も大きく、ようやく実現した待望の展覧会です。	平成18年5月13日(土)～6月18日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成17年度	ベオグラード国立美術館所蔵 フランス近代絵画展 ～知られざるルノワールの物語～	中欧の古都ベオグラード。ここには幾多の歴史のうねりに耐え守られてきた美術品があります。魅力的な風景画のコロー、印象派のピサロ、かわいらしいルノワールの小品たち、生命感あふれるドガの踊り子、ユトリロの街並みなど、ベオグラード国立美術館が所蔵するフランス近代絵画の逸品123点を紹介します。	平成18年1月7日(土)～2月12日(日)
	宮崎ーグラフィックデザインの現在	時代の夢を描き、大衆の願いを表現するグラフィックデザイン。それは広告、本の表紙、カタログなど様々な形で生活を彩ってきました。その華ともいえるポスターを中心に、これまでの宮崎のデザインの姿、そしてこれからの郷土宮崎のデザインを解き明かします。	平成17年11月5日(土)～12月4日(日)
	国立美術館巡回展 名作とは何か？	教科書から飛び出した名画たち東京国立近代美術館、京都国立近代美術館の名品により明治から昭和にかけての美術の流れを紹介します。岸田劉生、萬籟五郎、梅原龍三郎らの洋画、川合玉堂、土田麦僊、錦木清方らの日本画など、美術史を築き、近代を彩ってきた作品をお楽しみください。	平成17年8月10日(水)～9月11日(日)
	特別ナポレオン展 ～英雄の光と影～	一人の人間がどこまで歴史を変えられるか。どこまで歴史を動かせるかー。フランス革命後の激動と混乱の時代を颯爽と駆け抜けたナポレオンは、その波乱に富んだ52年の生涯で一人の人間としては不可能と思えるほどの幾多の大事業に挑みました。本展では、「人間ナポレオン」に焦点をあて、東京富士美術館の所蔵するナポレオン・コレクションにアメリカの貴重なプライベートコレクションを加え、絵画、工芸、家具、調度、宝飾、書簡、遺品など約200点を特別公開し、ナポレオンの素顔に迫ります。	平成17年4月23日(土)～6月5日(日)
平成16年度	サントリーコレクション 西洋の美・日本の華	本展覧会は、東京のサントリー美術館と、大阪のサントリーミュージアム[天保山]の所蔵品を合わせてサントリーコレクションとして名品を選びすぐり、日本美術と西洋絵画双方の精華をサントリー美術館外で初公開するものです。西洋と日本の美意識や造形表現の比較をしてみるのもおもしろいのではないのでしょうか。	平成17年1月12日(水)～2月13日(日)
	コレクションの歩み展	県立美術館は、この10月に開館10年目を迎えます。この間、国内外の優れた美術作品を収集展示し、多くの県民の皆様にご鑑賞していただきました。この「コレクションの歩み展」は開館10周年を記念し開催するものです。これまでに収集した作品の中から、選りすぐりの約500点を、全ての展示スペースを使ってご覧いただけます。	平成16年10月26日(火)～12月12日(日)
	ポール・デルヴォー展 ーその生涯と人物像ー	この展覧会は、ベルギーのポール・デルヴォー財団設立25周年記念展として企画されたもので、油彩21点を含む80点を展覧し、肖像画を中心にデルヴォーの生涯と芸術を紹介するものです。	平成16年7月31日(土)～9月5日(日)
	公開制作併催 横尾忠則「Y字路展」	公開制作に併せて、横尾忠則「Y字路展」を開催します。Y字路の作品だけを集めた全国初の展覧会。この展覧会のために描いた新作「宮崎のY字路」を含む約50点の作品を紹介します。	平成16年5月29日(土)～6月27日(日)
平成15年度	宮崎の陶磁器ーその源泉をたどってー	江戸後期から昭和にかけて県内で焼かれていた小峰焼、丸山焼、庵川焼、小松原焼、脇本焼、都万焼に加え、県内の作品に大きな影響を与えた鹿児島、長崎、島根のやきものを合わせて約100点紹介し、宮崎の陶磁器とその源泉をたどります。	平成16年1月10日(土)～2月11日(水)
	フランス象徴派展 ー幻想と神秘の世界ー	パリの個人コレクターが所蔵するフランス象徴主義のコレクションの中から、モローヤルドン、ドニをはじめとする多くの作家の作品123点により、詩的で幻想的な世界を紹介します。	平成15年10月25日(土)～11月30日(日)
	ボルティモア美術館所蔵 バルビゾン派～印象派展	19世紀、パリから離れてバルビゾン村に集った画家たちは、豊かな自然を描き出し、印象派の画家たちに大きな影響を与えました。コロー、ミレー、モネ、ルノワール、ピサロなど、日本人に愛されてきたバルビゾン派から印象派までの37作家の作品98点により、近代絵画の流れを紹介します。	平成15年7月12日(土)～8月17日(日)
	ドキュメンタリー時代 ～名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・三木淳の写真から～	日本のドキュメンタリー写真の分野で先駆けとなった4人の写真家、名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・三木淳の作品約180点を東京都写真美術館と(財)土門拳記念館のコレクションから紹介します。併せて、昭和14年に土門拳が宮崎で取材した作品約70点も特別に展示します。	平成15年5月24日(土)～6月22日(日)
平成14年度	ー日向の国300年の彩りー 郷土の絵師と日本画家展	延岡、高鍋、都城、日南などの絵師、日本画家の作品約70点により、近世から現代までの本県の日本画の流れを紹介します。	平成15年1月11日(土)～2月9日(日)
	日比野克彦展 ーある時代の資料としての作品たちー	現代美術の第一線で活躍する日比野氏の平面、立体作品約280点により、社会と美術の接点を身近に提示し、新時代の表現活動の動向を展望します。	平成14年11月23日(土)～12月23日(月)
	ミロ展 ーマヨルカ島の光の中でー	シュルレアリスム運動の旗手として注目を浴び、天真爛漫な作風で世界中を魅了したミロの名品67点を、油彩画を中心に展示・紹介します。	平成14年7月27日(土)～9月1日(日)
	ー光・影・人ー イタリア現代彫刻展	本展覧会は、これまでに収集した彫刻作品29点と彫刻作家による素描・版画の作品約50点を一堂に展示し、伝統をふまえながら多様な彫刻作品を生み出してきたイタリア現代彫刻の精華を紹介するものです。	平成14年5月25日(土)～6月23日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成13年度	一画業70年の軌跡ー 山田新一展	宮崎県出身の代表的画家の一人、山田新一。この展覧会では、山田の代表作はもちろん、周辺作家の作品も交えながら、その画業の全容を紹介いたします。	平成14年1月9日(水)～2月11日(月)
	アントワープ王立美術館所蔵 「黄金期フランドル絵画の巨匠たち」展	ヨーロッパ有数の美術館の一つ、アントワープ王立美術館の常設展の目玉とされる作品75点により、フランドル絵画の黄金時代の神髄を紹介します。	平成13年10月20日(土)～12月2日(日)
	原田泰治が描く 日本の童謡・唱歌100選展	日本の四季を描き続けてきた素朴画家原田泰治が、日本の童謡・唱歌のもつ郷愁や哀愁を詩情豊かに描き上げた作品100点を紹介します。	平成13年7月14日(土)～8月12日(日)
	孤高の日本画家 田中一村展	中央画壇との接触を断ち、自分の納得する絵を描くために奄美に移り住んだ孤高の画家、田中一村。この展覧会では、緻密な観察と鋭い色彩感覚で、亜熱帯の動植物を描いた一村の作品約120点により、その画業を紹介します。	平成13年5月19日(土)～6月24日(日)
平成12年度	一情熱・愛・詩情ー 塩月桃甫展	西都市に生まれた塩月桃甫は、本県のみならず戦前の台湾における美術の振興に努めたことでも知られています。本展は、台湾時代を含む桃甫の偉業を、油彩画、日本画、素描等約150点により紹介するものです。鮮烈な色彩と力強い筆遣いによる桃甫の世界をご堪能ください。	平成13年1月10日(水)～2月4日(日)
	幻想のガラス エミール・ガレ展	19世紀末アール・ヌーヴォー様式の工芸を代表する作家、エミール・ガレ。本展は、ガレの神秘と幻想を現出するガラス工芸の名品約100点を紹介するものです。	平成12年10月28日(土)～12月3日(日)
	近代日本画の形成 ー山種美術館名品展ー	近現代の日本画を中心とする山種美術館のコレクションの中から、明治以降、近代日本画の形成に携わった35作家88点の名品を選び、日本画の黎明期から戦前までの流れを紹介するものです。	平成12年7月8日(土)～8月13日(日)
	ー中国第9回全国美術展受賞優秀作品によるー 現代中国の美術	1999年に中国で実施された第9回全国美術展入賞作の中から選りすぐった油彩画、中国画、版画など5分野81点の秀作により、現代中国絵画の精髓を紹介します。	平成12年6月3日(土)～6月25日(日)
	公開制作併催 絹谷幸二展	この展覧会は、絹谷幸二氏による公開制作に併せて開催するもので、初期の油彩作品、自己の画境を確立したアフレスコ画の代表作、さらに最近の立体作品を含む約40点により、絹谷作品の魅力を紹介するものです。	平成12年4月21日(金)～5月21日(日)
平成11年度	ロー・コレクション 西洋絵画500年の巨匠たち展	この展覧会は、スイスのロー財団が所蔵する1,000点以上に及ぶ作品の中から、選りすぐった名品約100点を展示するものです。このコレクションがまとめて紹介されるのは、世界でも初めてです。今回の展示では、初期ルネサンスから20世紀に至るまでの、ヨーロッパ各国の代表的な作家を網羅しています。特に、人気の高い印象派の作品に重点が置かれ、モネ、ルノワール、ドガ、ピサロ、セザンヌ等の作品が出品されます。	平成12年1月8日(土)～2月13日(日)
	「日本のわざと美」展 ー重要無形文化財とそれを支える人々ー	日本の伝統工芸は、生活に密着して育まれていく中で、日本人の美意識を反映した芸術文化となり、広く親しまれています。中でも国が指定する重要無形文化財は、最高峰の伝統工芸を生み出す高度な技術といえます。この展覧会は、重要無形文化財に指定された陶芸、染織、漆芸などの「わざ」と、選定保存技術(伝統工芸に欠くことのできない用具の製作や材料の生産などの技術・技能)を、約160点の作品と、制作の実演や関係資料等によって紹介するものです。	平成11年9月11日(土)～10月11日(月)
	～風の記憶～ 安野光雅展	安野光雅は、風景画家、絵本作家、エッセイストとして多彩な活動を展開している作家です。この展覧会では、ヨーロッパ各地を描いた風景シリーズや様々な絵本原画など、約200点を展示紹介します。詩情と機知にあふれる安野光雅の世界を、ご堪能ください。	平成11年7月24日(土)～8月29日(日)
	開放された戦後美術 デモクラート1951～1957	1951年、瑛丸を中心に創立された「デモクラート美術家協会」。本展覧会では、戦後美術の出発点に位置したこのグループそのものに焦点を当て、その多彩で独創的な活動の全容を明らかにします。	平成11年5月2日(日)～5月30日(日)
平成10年度	ロダン展	フランス国立ロダン美術館所蔵作品を中心に、初期から晩年までの代表的な彫刻約70点とデッサン25点により、ロダン芸術の全容を紹介します。	平成10年12月20日(日)～平成11年1月31日(日)
	館蔵秀作版画展 ー松崎コレクションー	延岡市在住の松崎武壽氏より寄贈のあった、約230点からなる松崎コレクションより、長谷川潔、浜田知明など21作家70点の作品を展示し、近現代の版画の動向を紹介します。	平成10年11月17日(火)～12月6日(日)
	華麗なるハプスブルク家 5人の王妃の物語展	ハプスブルク家はオーストリアを中心に、長くヨーロッパに君臨しました。そこに生きた王妃たちの肖像画、装飾品、調度品など約90点を展示します。ハプスブルク家の歴史と宮廷文化をご堪能ください。	平成10年8月8日(土)～9月20日(日)
	公開制作併催 巖嘯作品展	公開制作に併せて、巖嘯氏の初期から現在までの油彩画、アクリル画、版画、オブジェなど代表作54点を紹介するものです。	平成10年6月16日(火)～6月28日(日)
	県美展のあゆみ 1975～98	宮崎県美術展25周年を記念し、第2回から第24回までの特選作品を一堂に展示します。併せてその時々々の社会事象などをパネル、写真等で紹介します。	平成10年5月2日(土)～5月31日(日)

開催年度	展覧会名	概要	会期
平成9年度	夢色の叙情 竹久夢二展 —河村コレクション特別公開—	「宵待草」の作者として知られる竹久夢二は、大正期を舞台に、画家、詩人、デザイナーとして、幅広い分野で才能を開花させました。彼の描いた甘美で哀愁に満ちた作品は、当時の多くの人々の心をとらえ、一世を風靡しました。本展覧会では、生前夢二と交友のあった河村幸次郎氏のコレクションの中から、日本画、油彩画をはじめ、夢二がデザインした絵はがきなどを展示し、時代をこえて人々を魅了し続ける夢二芸術の全容を紹介します。	平成10年1月24日(土)～2月22日(日)
	モディリアーニとその時代 パリ1910～20	パリでは、第一次大戦前後から第二次大戦直前にかけて、エコール・ド・パリと呼ばれる画家たちが、異邦人の心情を反映した独自性の強い個性的な芸術を展開しました。本展では、その代表的画家モディリアーニ、ユトリロ、スーテン、ヴラマンクなどの名品約70点を紹介します。	平成9年11月8日(土)～12月7日(日)
	—いのちを彫る— 棟方志功展	棟方志功は、自らの木版画を「板画(はんが)」と称して、物語や詩歌の世界、宗教や神話、妖艶な女性などを大画面の板画にダイナミックに表現したことで知られています。本展では、青森市の棟方志功記念館の所蔵品を中心に、初期から晩年までの代表的作品約90点により志功の偉大な画業を紹介します。	平成9年8月23日(土)～9月21日(日)
	新収蔵作品展 ミュージアムコレクション'88～'97	宮崎県では、県立美術館の開館に合わせ、昭和63年度から国内外の優れた美術品を収集してきました。本展では、それらの中から平成8年度までに収集したピカソ、シニャック、ルオー、山口薫、海老原喜之介、瑛九などの秀作約70点を紹介します。	平成9年6月28日(土)～7月13日(日)
	ふれあい彫刻展	彫刻がもつ微妙な表面の起伏、そして様々な異なった素材の感触。それらは作品に直接指を添える時、見ただけでは感じることでできない彫刻の新たな発見と魅力になるはずです。この展覧会は、目の不自由な方々に鑑賞という機会を提供することはもとより、観覧者に触れることによる美術鑑賞という新たな体験を味わっていただくことを目的に開催します。ロダン、佐藤忠良など国内外の著名作家や、郷土作家の秀作及び、盲学校の児童・生徒たちの作品を紹介します。	平成9年4月26日(土)～5月25日(日)
平成8年度	日本のうた ふるさとのうた わが心の風景画展	明治、大正、昭和そして平成とうたい継がれてきた「日本のうた ふるさとのうた 100曲」のイメージをもとに、平山郁夫など日本画壇で活躍中の50名の作家が「心の風景」として描いた秀作100点を紹介します。	平成9年1月11日(土)～2月2日(日)
	没後10年 梅原龍三郎展	洋画家・梅原龍三郎は、明るい色彩と豪放な筆遣いにより独自の世界を築き上げ、日本の美術界に大きな足跡を残しました。本展は、没後10年を迎えるにあたり、16歳の初期作品から絶筆にいたるまでの、精選した秀作100余点と、愛用のパレットや、イーゼル、筆などの遺品のほか、師ルノワールからの手紙や、ピカソより贈られたデッサンなどを紹介しながら、梅原芸術の全容とその人間像を浮き彫りにするものです。	平成8年10月5日(土)～11月3日(日)
	大英博物館 肉筆浮世絵名品展	大英博物館は、ヨーロッパ最大の日本美術コレクションで有名です。その中でも浮世絵作品は、質・量ともに、世界第一級のものとして知られています。浮世絵といえば浮世絵版画がよく知られていますが、肉筆浮世絵は絵師自らが筆をとり一点一点精魂込めて描いたもので、見るものに版画とは違った感動を与えてくれます。本展は、これら大英博物館の所蔵品により、江戸初期から明治までの300年間にわたる肉筆浮世絵の流れを、菱川師宣、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川豊春などの名品130点でたどるものです。	平成8年8月3日(土)～9月8日(日)
	宮崎県立美術館開館記念展 魂の叙情詩 瑛九展	瑛九(本名杉田秀夫)は、明治44年に宮崎市に生まれ、昭和の初期、いち早く海外の芸術思潮を吸収しながら、フォト・デッサンをはじめとした画期的な作品を数多く制作しています。常に自由と独立の精神で取り組み、饅頭や池田満寿夫など現在活躍している作家たちにも大きな影響を与えました。本展では、初期から晩年までの油彩画、フォト・デッサン、エッチング、リトグラフ等の中から代表的な作品を展示し、本県が生んだ偉大な前衛画家瑛九の画業の全貌を紹介します。	平成8年4月27日(日)～6月2日(日)
	寄贈秀作美術展 PART I～III	当館が寄贈を受けた作品の中から、「郷土作家美術コレクション」をはじめとする、代表的な絵画、彫刻作品約200点をPART I～IIIの3回に分けて紹介するものです。	平成8年2月20日(火)～3月3日(日) 平成8年6月15日(土)～6月30日(日) 平成8年12月7日(土)～12月23日(日)
	平成7年度	宮崎県立美術館開館記念展 山種美術館展 日本画の巨匠たち	山種美術館は、昭和41年東京の日本橋に開館した日本画を専門とする美術館です。その所蔵品は、近代から現代までの日本画を中心に、約2000点からなり、日本画収集においてわが国屈指のコレクションを誇っています。本展覧会は、それらの中から川合玉堂、横山大観、奥村土牛、平山郁夫など近代から現代にかけて日本を代表する作家たちの名品約60点を紹介し、日本画の流れをたどるとともに、詩情あふれる日本の美と心に触れるものです。
宮崎県立美術館開館記念展 ナント美術館展 魅惑の19世紀フランス絵画		フランスの西部ブルターニュ地方の中心都市ナントにあるナント美術館は、ナポレオンによって創設された歴史の古い美術館です。そのコレクションには、イタリア・ルネサンスから現代絵画まで数多くの名品が所蔵されています。本展は、県立美術館の開館記念特別展として開催するもので、ナント美術館のコレクションの中から、個性を主張しながら大きく変遷していった19世紀フランス絵画の流れを、ドラクロワ、コローなどの巨匠の作品約80点により紹介します。	平成7年10月17日(火)～12月10日(日)